

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

ビジョン

地球と月が1つのエコシステムとなる世界を築くことにより、月に新たな経済圏を創出する。

月着陸ミッション
3及び4ミッション

累計資金調達
約415億円

NASA契約金額
約6,218万米ドル

② 中長期の経営戦略

1. 品質向上サイクルの実現

民間企業ならではの失敗許容度を活かし、ロボティクス小型軽量ランダーとCOTS品で開発コスト低減。実証機会増加により反復ミッションで品質向上と量産化を実現。

3. ミッションリスク対策

SpaceX社ファルコン9 ロケット採用（打上成功率約99%）。月保険をすべてのミッション契約で締結し財務リスク軽減。ミッション1で約38億円保険金受領。

2. ミッション1・2の技術実証

2022年ミッション1及び2025年ミッション2を実証ミッションと位置づけ。失敗データもミッション3以降へ活用し経験値を蓄積。

4. 継続的資金調達

複数ミッション同時並行開発に向け、グローバル資本市場へアクセス。2024年度約193億円、2025年度155億円の借入実行で資金バッファ確保。

③ 対処すべき課題

① 宇宙開発の不確定要素管理

- ・ ミッション1・2実証段階での不確定要素への対応
- ・ 品質向上サイクル実現に向けた高頻度ミッション実施
- ・ リスク・コントロール範囲内での失敗許容体制構築

② 財務的リスク対応

- ・ ロケット打上後の損害賠償放棄（自損自弁）業界慣行への対応
- ・ 複数ミッション同時並行開発に必要な継続的大規模資金確保
- ・ 顧客との契約で重大瑕疵なき限り返金なしルール構築

③ 契約・保険制度の整備

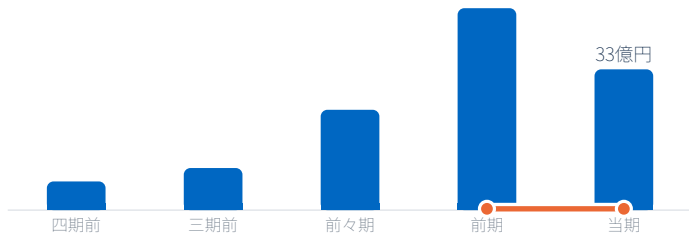
- ・ 損害保険会社との月保険契約の継続的確保
- ・ 月面輸送サービスにおける損害保険商品の将来導入検討
- ・ 顧客との損害保険商品による財務リスク軽減仕組み構築

面接で使えるポイント

- ・ 民間企業ならではの失敗許容度を活かし、開発コスト低減と高頻度ミッション実施で品質向上サイクルを実現する事業モデル
- ・ MBRSC・JAXA・NASA等政府機関とDraper等民間企業の両方を顧客ターゲットに…
- ・ 2027年ミッション3・4に向けた複数ミッション同時並行開発を支える継続的な約415億円の資金調達実績

証券コード 9348

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
33億円営業利益率
▲350.2%財務健康度
17点 / 100点

将来性 晴れ時々曇り / 就活偏差値 54.6（当サイト算出の参考指標）

平均年収
1,076万円

サービス業内 18位/524社

平均年齢
40.2歳

サービス業内 195位/527社

平均勤続
2.8年

サービス業内 479位/527社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース＋一言

